
夢？それとも現世？

月下の奇術師

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢？それとも現世？

【Nコード】

N1940J

【作者名】

月下の奇術師

【あらすじ】

青子が突然見た夢。その夢で青子は本当に夢なのか、本当は現世なのか迷ってしまいます。

今回は快斗×青子で、青子sideでいきたいと思えます。

私の第2作目。まだまだ未熟ですが読んでくださると嬉しいです！

これは夢なの？本当に夢？

私は夢だと信じたいんだ・・・
でももし本当なら私は受け止めるよ・・・
だからどこにも行かないで、快斗。

「早くパンドラを渡せ！」

「無理ですね・・・これはあなた達には渡せません」

「だったらこうするしかないな」

青子がいる目の前で謎の黒い服を着た人が怪盗キッドへ拳銃をむけた。

バン！

その瞬間、銃声が夜空に響きわたった。
怪盗キッドの白いタキシードとマントが赤く染まっていく。そして
ゆっくり、時間がスローになったようにキッドは倒れた。

「青子・・・早く逃げる・・・」
声を絞り出すように言った。

青子はその時気づいたのだった。
明らかにこの声は快斗の声だった。

「快斗？快斗なの？ねえ、しっかりしてよ！・・・青子をおいてかないですよ！」

青子の目からは大量の涙があふれでていた。

「ごめんな・・・青子」

「いやだよ・・・いや！快斗　　！！」

・・・

「おい青子！青子！大丈夫か？」

・・・え？快斗？あれ・・・そうだ、勉強を快斗に教えてもらおうとして快斗ん家に来て、いつの間にか眠っちゃったんだ・・・

「うん。大丈夫・・・」

「本当か？だいぶつなされてたぞ？俺の名前叫びながら」

「大丈夫だから。さっきの続き教えて？」

今の夢・・・快斗が怪盗キッドだったよね・・・前に何回か疑ったことはあるけど・・・

そういえば、パンドラって何？あの全身真っ黒な人は誰？

「おーい聞いてるか？」

「えっ・・・？ああ聞いてるよ？」

「そうか？」

ねえ・・・快斗。あれは夢なんだよね・・・そうなんですよ？夢だつて言つて、快斗・・・

青子の気持ち矛盾してると思うけど、

もし、もし快斗が本当に怪盗キッドなんだつたら青子は受け止めるから・・・教えてよ・・・青子の夢の質問に答えてよ！

「青子、今日さつきからおかしくねーか？起きてからずっとぼーっとしてるぜ？おまけに今のお前の目、涙目になってるぞ？」

「それはっ・・・」

「なんかあつたんだろ？教えてみる。お前、1人のためこむな。」

やっぱり快斗にはかなわないな・・・すぐ青子の気持ち見抜かれちゃう・・・

でも言うべきなのかな・・・『快斗は怪盗キッドなの？』なんて聞けないよ・・・

青子はさんざん怪盗キッドの悪口言つて、私のお父さんは怪盗キッドをいっつも追いかけてまわしてたんだもん・・・

でも、このままだったら前みたいに笑ったりはしゃいだり出来ないかもしれない。快斗や皆に迷惑かけるかも知れない。

決めた。青子が快斗にちゃんと真実を聞く。快斗がどんな答えを出しても全部受け止める……！

「ねっ、ねえ……快斗はさ、怪盗キッドなの？」

青子は快斗の目が一瞬大きく開いたのを見逃さなかった。

「はっ？ちつ違ーよ、俺は高校2年生の黒羽快斗だよ」

嘘ついでる……青子にはわかるよ。快斗……信じたくはないけど本当のこと言ってよ！……ちゃんと受け止めるって決めたんだからッ！

「もう嘘つかないで！本当のこと言って！」

「青子……」

青子の目からはもう涙が溢れ出ていた。

「わかったよ……教えてやる。俺は……正真正銘の怪盗キッドさ……でもどうしたんだよ？なんかあつたる」

やっぱり、そうだったんだ……青子を騙し続けてきたんだね。

「夢だよ……快斗がキッドで変な黒い人にパンドラがどーのこーので殺されたんだよ……それでもし快斗が……快斗が怪盗キッドだったらって……怖かった」

「そうだったのか・・・ごめんな、お前にそんな思いさせて。でもな青子、パンドラとその黒い人のことは悪いけど言えなんだ・・・。けど俺はぜってー捕まらねーし、殺されねーよ」

「快斗・・・絶対だよ？・・・でもお父さんは絶対キッド捕まえるんだから！」

「おい！お前中森警部に言うなよ？頼むから」

「わかってるよ、青子は快斗・・・いや怪盗キッドを応援してるから。絶対捕まっちゃダメだよ？」

「だから捕まらねーっていつてんだろ？」

青子は快斗が怪盗キッドでも大好きだよ？

予告のあとは快斗が帰って来るのをずっと待ってるからね

終わり

(後書き)

皆様、最後まで読んでくださりありがとうございます。

連載のほうですが、冬休み中には完結予定ですのでよろしくお願
い
します！

最後に感想、レビューをしていただけると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1940j/>

夢？それとも現世？

2010年12月18日18時05分発行